

---

# Demon's heart

柳 リョウ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

Demon's heart

### 【Nコード】

N1391Z

### 【作者名】

柳 リヨウ

### 【あらすじ】

デリエスタ王家で王位継承権を得るには、ある一族の人間と契約をしなければならぬ。……が、第一王女マリアナの契約相手は契約を不服とする自分勝手な騎士。横暴騎士と猫被り姫の、歪んだ主従関係は果たして覆すことが出来るのか！振り回し、振り回されながら、大切なものを見つけていくミステリー風味王宮ファンタジー！

ニコツとタウンのブログにて別タイトルで連載中です。いち早く読みたい方はそちらへどうぞ！といってもそこまで進んではいません

が  
^  
^

## 第一話 横暴騎士

デリエスタ王家の歴史は三百年にも上る。

かつて内乱の絶えなかつたデリア地域をまとめ上げた初代国王たるローグは、神より与えられた神力により、数多の小国をまとめ上げ、現在のデリエスタ王国を作った。

そんなローグは、通称魔王と呼ばれる。

悪魔を従え戦場を駆ける、魔の王と。

本当に悪魔を従えていたのか。その真偽は、確かではない。

けれど、彼の傍に常に血濡れの瞳と濡羽色の髪の毛の鬼神のごとく強い男がいたということ。

そしてその男の子孫が、今もなお、デリエスタ王家に仕えていること。

それだけが、事実。

デリエスタ王家の王位継承権は、ほかの国よりも少々複雑である。もともと、デリエスタ王家は王妃は三、四人であるものの、産めよ増やせよ主義であり、王子王女は20に近い。

彼ら全員に王位継承権を与えるとすると、必然的に壮絶な王位争いが始まる。

そこで定められた掟は、忠臣である悪魔の血を引く、ドレーク一族の人間が主と定めた人間が王位継承権を手にする、というもの。

実際は、二段階の契約によりドレーク一族の人間を自分の配下として縛り付けられた人間が王となる資格を与えられるというわけだ。一つ目は、血による契約。二つ目は、名による誓約。

この場合、ドレーク一族の意思にかかわらず、強引に契約だけは結んでしまうことができる。するとドレーク一族の意思は無視され、忠誠を誓ったことにはならない。

……で、忠誠を誓っていない配下と契約を結ぶとどうなるかというところ、今現在の私と同じ状態になる。

「おい女、酒をもつてこい」

「……………女ではありません、デリエスタ第一王女マリアナ・ウィル・デリエスタです!!」

「なんだ、女じゃないということはお前は雄だったのか？それは恐れ入った。その胸にある二つの肉塊はどこで手に入れたんだ？」

「口を慎みなさいっ!!私はあなたの主で」

「ああもついい。おいそつちの侍女、酒を持って来てくれ酒を」  
まったく話を聞いていない。

ぎりりとにらみつければ、さらに眼力を持つ赤の瞳と目が気だるげにこちらに向けられる。あくまでも気だるげに、だがしかしその眼力は強い。

悪魔の血を引くという、ドレーク一族。彼らの特徴は黒髪と、血染めの紅い瞳だ。その瞳は、見るだけで全身を身震いさせるほどの恐怖を覚える。

ふと視線を廊下に走らせると、身を小さくしているメイドがいた。手には酒瓶、さっき酒を取りに行った者だろう。

完全に怯えきっている彼女に苦笑をこぼしながら、私は彼女に近寄る。

「ひ、姫様、あの、その……………」

「いいわ、私が渡しておきます。あなたはもう下がりにさい」

「は、はい！ありがとうございます！」

一瞬にして表情が輝き、脱兎のごとく立ち去りかけたメイドは途中で思い出したように立ち止まり、恐る恐る戻ってくる。

「それと、もうしばらくしてからファディ殿下がこちらにいらっしやるそうです」

「あらそうなの？わざわざありがとう」

全力の笑みで労えば、今度こそメイドは逃げていった。

「メイドがアレではお前も大変だな。処分してやるうか？」

「メイドよりむしろあなたのほうが大変です。まったくもう……」

この男が怯えられているのにはその容姿とはほかに、もう一つ理由がある。

この屋敷にやってきた当日に、メイド三名兵士五名を切り殺すという大惨事を引き起こしたのだ。

それ以来、この男に近づきたがるものがほとんどおらず、傍にいないこちらも被害を被っている。

「それよりも、今日は来客があります。身内の非公式な訪問ですが、くれぐれも身勝手なことはしないように！」

「うん？これはなかなかの美酒じゃないか。産地はどこだ？」

「聞いているのですかあなたは！！」

「聞く気がない」

いつそ潔いほど忠誠心というものを持ち合わせていない男。彼が私の配下である。

名前はまだ知らない。教えてもらえていない。

第二の誓約は、いまだ結ばれていなかった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1391z/>

---

Demon's heart

2011年12月4日23時53分発行